

令和5年度
福岡県ノーリフティングケア普及促進事業
実践報告

ノーリフティングケア 再取組み


～みんな一緒にリスタート～



社会福祉法人さわら福社会
特別養護老人ホーム マナハウス

実は…4年前に「ノーリフティングケア宣言」

きっかけは4年前福岡市主催の「福祉用具専門研修」
に施設職員3名で受講。 ちょうどその頃……

膝を手術した職員が仕事復帰できるか不安を抱えていた。
だったら、「働ける環境をつくろう!」と 

施設長から提案。  低床リフト1台をすぐ導入。

マナハウスのノーリフティングケアが始まる!



その頃の職員の意識

福祉用具は身体に不安がある人が使うもの





4年前に「ノーリフティングケアの宣言」、
「取組みを開始」した気になっていた…
実情は……

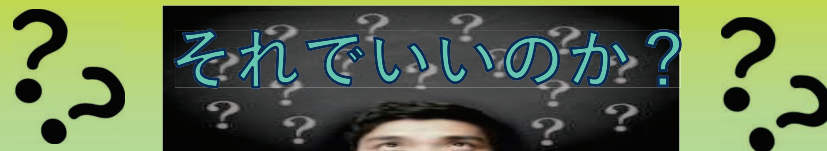
 研修が定期的に出来ていない。 

 研修を受けた3人のみで取組みを進める 


 職員の意識が低く、今まで通りの介助 

 平均要介護度4、重度の利用者が増加、
直接介助による入居者の表皮剥離や
皮下出血の発生・腰痛をもつ職員の増加 

なんとなくでやっていたノーリフティングケア

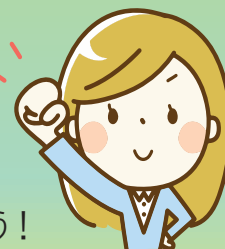


施設長の一言：「県の事業に参加しない?」

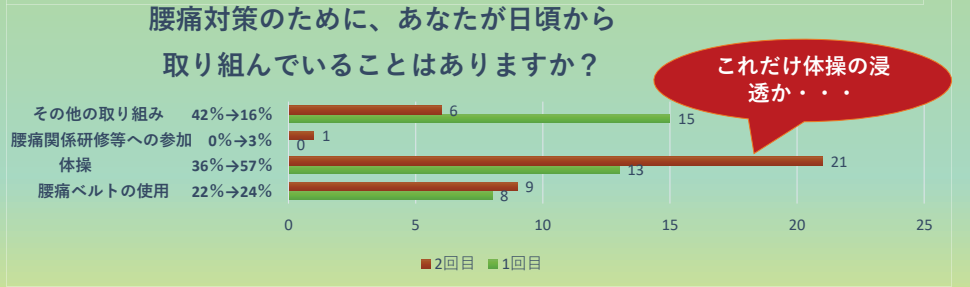
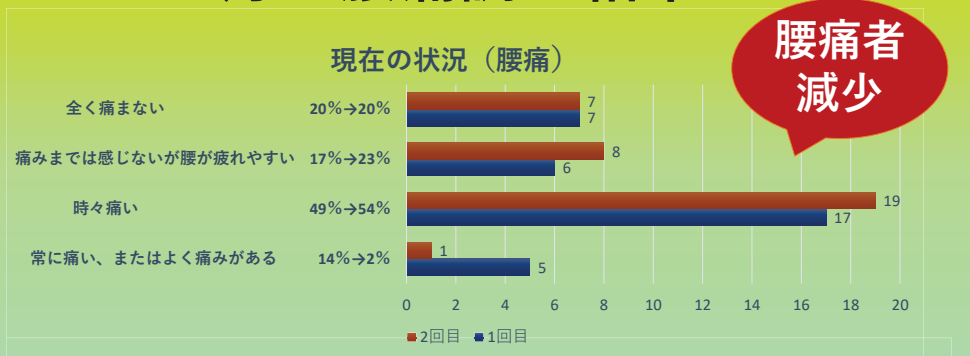
 参加を決意!!

今までの反省から……

マネジメントに力を入れよう!

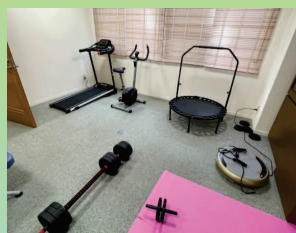


12月の腰痛調査結果



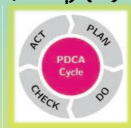
これからの課題

- 腰痛体操の実施が不十分
 - 腰痛体操が取り組みやすい環境整備
 - 施設内ジム（manaZAP）設置完成！



- 腰痛者がまだまだいる
 - 腰痛者を“0”にする

- ノーリフティングケア取り組みの継続
 - PDCAサイクル



特に力を入れたこと

- 体制づくり
 - 委員会メンバーを含む指導職員の育成
- 福祉用具ありきのケア
 - リフトやスライディングシートなどをフルに活用
- 意識改革



「介助に時間がかかっても腰を守ろう」と言い続けた（ケア時間をコミュニケーションの時間へ）



最後に

5人

腰痛減少

1人



施設長がきっかけをくれたノーリフティングケア。
今いる人材が「**年齢・体力・怪我**」で離職をせず
いつまでも続けられるように（人材を探すのは**コストも時間**もかかる）、新卒職員の確保の為にもこの取り組みは**必須!!!**（実習生にも**ノーリフティングケア体験**をしてもらっている）
今回、半年という短い期間の中でリスタートし、更なる**成果が出ている**。
スタッフ全員で**喜びを共有し、継続**させていきます!!!

